

群馬県介護支援専門員協会

若年がん在宅療養支援事業に関する
ケアマネジャー養成研修

～利用者ケア～

2023年8月19日(土)

HugHeart-ハグハート訪問看護ステーション
反町利恵

Hugheart-ハグハート
訪問看護ステーション

- 平成27年6月設立
- 常勤5名(管理者反町は兼務)非常勤5名
(緩和ケア認定看護師・訪問看護認定看護師)
- 抱きしめる♡看護を提供する
- 医療20名介護27名(7月実績)
- 看取り78名/年(2022年実績)
がん末看取りが多い

在宅福祉 かんわケア大地

認知症やがんなどの疾病、
また身体機能障害を持っていても、
最期まで人間としての尊厳が守られ、
その人らしい暮らしを送れるよう支援する。

前橋市石倉町

ティサービスおそら

ホスピス和が家

ヘルパーステーションわらび

高崎市引間町

ケルーフホームひびき

HugHeart-ハグハート 訪問看護ステーション

若年者の
サービス

ドイツでは、生まれたときから介護保険サービスが使える制度がある。
そして、神戸市には、若年者の在宅ターミナルケア支援事業がある。

2015年

若年者の在宅ターミナルケア支援事業

神戸市では、2015年より患者の方に認知症やがんなどの疾患で支度して自分らしい生活が過ごしやすく、在宅サービス利用料の一部を助成(助成)して、患者さんへの実験的負担軽減を行っています。

●対象者

- 65歳未満の被扶養者の持戸内に在住している方
- 医療が一時的に認められている認知症の患者に、最初に加療の見込みがない状態に至ったと判断し、在宅生活への支援及び介護が必要な方
- (医療から早期がんと診断された方)
- 認知症の早期発見がある方

●サービス内容

- 訪問介護(介助・ヘルプサービス)
ホームヘルプ(介助・ヘルプ)、介護(介助)、看護(看護)、料金(料金の内訳)
- 生活援助(介助・洗濯・調理・掃除)、衣服の整理、ベッドメイキング等の介助
- 看護(看護)
- 車いす(介助)、ベッキー、アラモード、体位変換器、手すり・スローブ、浴槽・浴槽・浴槽リフト、当面の間隔(看護)
- 日常生活(介助)

●サービス利用料と負担金

- 1ヶ月あたりの料金(月額料金)は、原則として1万円
- サービス利用料の1割を扶養料と算出し、必ず支払うべき料金は、扶養料と算出されます
- 扶養料のサービス利用料の割合は、原則として1割まで

●扶養料実績

平成27年4月1日以降にサービスを実績したものの
●扶養料・扶養料
〒650-8570 神戸市中央区元町通16-5-1 (JR神戸1号館)
神戸市役所総務課障害者課障害者支援課
TEL 078-322-0517 (受付) FAX 078-322-4003
神戸市セカンド

表1 AYA世代を対象とする自治体独自の在宅療養支援事業（2021年5月時点）

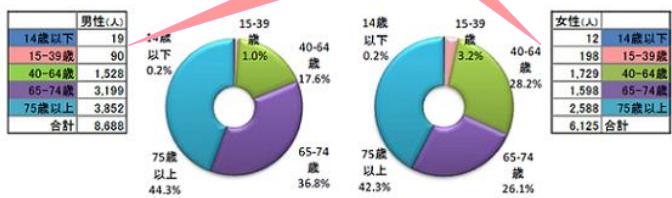
- ・意見書：事業対象者であることを医師等の第三者が証明する意見書の作成にかかる手数料を補助。
- ・ケアマネジメント：心身の状況等に応じたサービス計画の作成やサービス事業者・市町村との連絡調整等の業務に対する報酬を補助している。

表1 AYA世代を対象とする自治体独自の在宅療養支援事業（2021年5月時点）

群馬県

2018年に新たに診断されたがんについて ～年齢別～

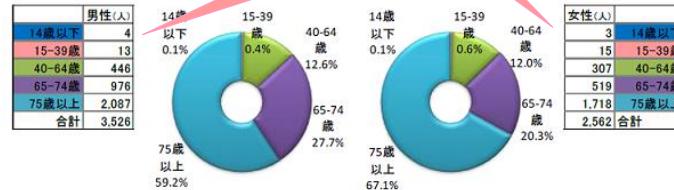
39歳以下
319人



群馬県

2018年にがんで死亡された方 ～年齢別～

39歳以下
35人



対象地域

・35市町村

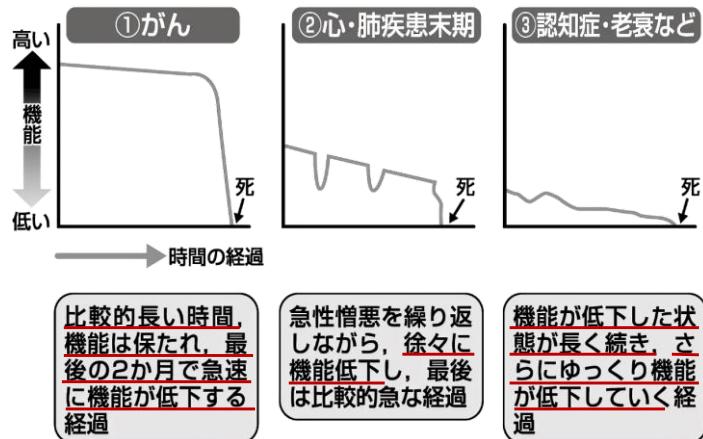
(群馬県下全ての市
町村)

対象となるサービス

- 訪問介護（身体介護・生活援助・通院等乗降介助）
 - 訪問入浴介護
 - 福祉用具貸与
 - 福祉用具購入
 - 介護支援専門員による事業所の紹介・調整等に係る費用

自己負担：利用料の1割

死に至る3つのパターン



ポイント

がん患者は、
急速に機能が低下する

★「昨日できたことが今日はできなくなる。」

こんな方を担当したら、
ケアマネジャーとしてどう動きますか？

ハグの言い訳

「だから、無茶ぶりをするのです…すみません」

AYA世代のがんについて

- AYA世代とは、Adolescent and Young Adult (思春期・若年成人)の頭文字をとったもので、主に、思春期(15歳～)から30歳代までの世代を指す。
- 日本では、**毎年約2万人のAYA世代**が、がんを発症すると推定されている。AYA世代でがんを発症する人は、**1年間でがんを発症する人100人のうち2人程度**。年代別にみると、15～19歳が約900人、20歳代は約4,200人、30歳代は約16,300人(2017年)。

-がん情報サービス-

希少がんの発症が多く見られるAYA世代
～がんの種類は、年代によって違がある。～

〈15～19歳〉

1位白血病、2位胚細胞腫瘍・性腺腫瘍、
3位リンパ腫、4位脳腫瘍、5位骨腫瘍

〈20～29歳〉

1位胚細胞腫瘍・性腺腫瘍、2位甲状腺がん、
3位白血病、4位リンパ腫、5位子宮頸がん

〈30～39歳〉

1位女性乳がん、2位子宮頸がん、3位胚細胞腫瘍・
性腺腫瘍、4位甲状腺がん、5位大腸がん

-がん情報サービス-

ポイント**異性に対する恥ずかしさ**

★ある程度、病気のこと、身体のことを相談するには、同性のほうが話しやすい?

★利用者と同性がいいのか、介護者と同性がいいのか

利用者や介護者に聞く気づかいが必要

ポイント**予後を伝えることで今後の費用の検討**

- ・在宅医療の携わる期間は、およそ平均1か月
- ・若い方は、ギリギリまで頑張る方が多い
→要望を聞くことができたら、スピーディな対応を。

ポイント**ダブルケアしている介護者のケア**

★ヘルパー導入目的の多様化

- ・介護者が本人の介護に集中できるように。
- ・介護者の話し相手として。

生活支援、身体介護という手段を使って、ヘルパーはどんな目的のために介入するのか、そのことの明確化

**若年がん患者在宅療養支援事業
～実際に利用して～**

“AYA” 特有の悩みや課題

- ・周囲から孤立したように感じる悩み

- ・外見の変化

治療に用いる抗がん剤の副作用は、見た目に大きな影響を及ぼす。例えば髪が抜けたり、肌が黒ずんだりする。

男女を問わず、これらの外見の変化をきっかけに、日常生活や対人関係に対して臆病になってしまうケースがある。

- ・教育・就労の問題

多くは、学校に通っていたり、仕事をしていたりする年代

- ・経済的な問題

若年層では保険に加入していない方が多い。

養育費や住宅ローンを抱えがちで、自宅で療養を続けるには経済的負担が重い。

- ・治療の継続など今後の意思決定支援

ケアマネジャーの方へお願い

- ・目的は、**どんな年代であっても住み慣れた環境**で家族と過ごしてもらうのを後押しすること。

- ・対象人数は、少ないかもしれないが、目の前の**一人の方のために、一つの家族のために提供**されるサービスである。

- ・自治体間での問題意識の差が大きい。希望する療養が**地元で**実現できるようにAYA世代に支援の手を差し伸べてほしい。